

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

前回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修 第1章 典礼の刷新と促進のための一般原則」の「I 聖なる典礼の本質と教会の生活における典礼の意義」の「教会の活動は典礼に限られない」を解説しました。

今回は「典礼、特に聖体の恩恵の源泉」について解説します。私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

典礼憲章

③ ～第二バチカン公会議公文書より～

聖なる典礼の本質と教会の生活における典礼の意義より～
（【典礼】とは、キリストの祈りに与ることです。）

【典礼】は教会活動が目指す頂点であり、教会のあらゆる力の源泉です。

教会は全ての人々が信仰と洗礼によって神の子となり、一つに集い、神様をたたえ、主の晩餐（聖体拝領）に与ることを目標としています。

また【典礼】は私たち信者が一つに結ばれるよう励まし、日々の生活において私たちの信仰を保てるよう助けます。

「これは私の血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて、

罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血」

ミサの中で行われるこの「契約（洗礼を受けた時に交わした神様との契約）の更新」により、私たち信者はイエス様からの愛に向かわずにはいられなくなります。

私たちに注がれた神様からのいつくしみにより、私たちは聖なるものとされ、神様の栄光に与ることを目指します。

（つづく）